

第2回 葛飾区スタジアム構想事業 検討委員会

日時：令和8年8月10日（月曜日）16時30分から

会場：葛飾区役所 7階 705・706会議室

1. 開会
2. 第1回検討委員会における各委員の主な意見
3. スタジアムのあるべき姿についての検討
4. 「アンケート」及び「地域住民の対話の場」の実施について
5. 閉会

◆別紙一覧

資料番号	資料名	関連議題
別紙 1	葛飾区のスポーツの特色	3. あるべき姿
別紙 2	葛飾区の歴史・産業構造と新スタジアムとの連携可能性	3. あるべき姿
別紙 3	スタジアム事例集	3. あるべき姿
別紙 4	「アンケート」及び「地域住民の対話の場」の実施について	4. アンケート等

第1回検討委員会における各委員の主な意見（1 / 2）

総論

- スタジアム単体ではなく、東新小岩運動場や新小岩駅周辺、区全体のまちづくりの中で位置付けるべき
- 駅前から敷地周辺に自然な人の流れを生み、にぎわいが広がる空間づくりが求められる
- 路線価の上昇や再開発の促進、新旧コミュニティの交流など街の変化が予想される
- J1基準の球技専用スタジアムとして、東京都や関東圏全体における広域的な価値を検討
- スタジアム整備により、葛飾区の新たなシンボルとなる可能性がある
- 構想策定や整備の過程でも、区民との関わりや情報公開を重視し、機運醸成につなげることが重要

都市公園とスタジアムの親和性

- 現在の東新小岩運動場が持つ開放性や、地域に開かれた空間としての性格を生かすべき
- スタジアムの価値は、試合開催日だけでなく、試合のない日の使われ方が重要
- 散歩、交流、軽い運動、イベント、学びなど日常的に利用できる開かれた施設・公園とするべき
- 日常の延長として立ち寄れる場所とすることで、地域に愛される施設につながる
- 外国人、障がい者、子ども、高齢者など多様な人々が関われるインクルーシブな場とすることが望ましい

防災拠点としてのスタジアム

- 首都直下地震、水害、木造住宅密集地域等の課題を踏まえ、防災機能を備えた地域拠点とするべき
- 荒川・江戸川に挟まれた立地特性への対応が必要
- 防災機能は非常時のみでなく、平常時の利用と有事の活用がつながる設計が重要
- 区民に加え、通勤・通学等で地域を訪れる人への災害時の受け入れや支援も検討

第1回検討委員会における各委員の主な意見（2/2）

地域とスタジアムの共存

- 小規模事業者や町工場が多い地域特性を踏まえ、地域産業・商業との連携拠点として活用
- 葛飾産業フェア等の地域イベントとの連携や、区内産業の発信
- 来場者による飲食・買い物など、地域経済への波及が期待される
- キャプテン翼、南葛SC、大学スポーツ等の地域資源を組み合わせ、区内外や海外へ発信
- 23区初のサッカー専用スタジアムの可能性を生かし、スポーツを軸としたまちづくりのモデルを発信

スポーツを軸とした価値の提供

- スポーツを通じた健康づくり、元気なまちづくりに資する施設とすることが重要
- スポーツを「する」だけでなく「みる」ことを通じて、子どもたちが関心を持つきっかけとなる施設へ
- 部活動の地域移行、大学スポーツ、学習支援など、教育・人材育成の場としての活用
- ウェルビーイングに資する場とすることが望ましい
- データサイエンス、ICT、映像分析など、観戦や施設運営の高度化を見据えた機能の検討

スタジアムの公共性と経営性

- 従来型のコストセンターではなく、収益を生み地域に還元するプロフィットセンターとして捉える視点
- ネーミングライツ、民間運営ノウハウ、収益の駅前環境整備等への還元の仕組み
- 都市公園内の公共的施設として、区民利用・教育・健康・防災・福祉等の公共的価値を明確化
- 収益性のみを追求せず、公共性と経営性の両立を図ることが重要
- 開閉式屋根や昇降式ピッチ等は、費用対効果や実現可能性を含め今後の論点として整理